

目 次

序章	1979～2008年のイギリスの資本蓄積	1
	——評価と本書の構成——	
第1章	雇用削減による生産性上昇の資本蓄積	11
	——脱工業化とそれがはらむ諸問題——	
1	イギリスの脱工業化 (De-industrialization)	11
2	イギリスの製造業雇用の縮小の動き (1950～2007年)	14
2.1	1950年から1980年代初期までの脱工業化	14
2.2	1979年から2007年までの脱工業化	17
2.3	1979年以降の労働市場の全体的な動き	20
3	先進国比較から導かれるイギリス製造業の資本蓄積の特徴	33
3.1	生産性の顕著な増大	33
3.2	低迷を続ける産出高	35
3.3	所得と利潤の上昇を可能にする長期失業者の大量発生と存在	38
3.4	イギリス資本蓄積が導き出すもの	40
4	生産性上昇の独自のメカニズムを持つ資本蓄積軌道の形成	43
4.1	生産性低下の1979～81年期間	44
4.2	雇用減少による生産性上昇の1982～87年期間	49
4.3	産出高増大による生産性上昇の1988～90年期間	54
4.4	雇用減少による生産性上昇の1990～92年期間とそれ以降	56
5	個人消費主導の景気回復	57
5.1	個人の可処分所得の増大	58
5.2	個人の貯蓄率の低下	62
5.3	個人消費の刺激政策	63
5.4	個人消費主導の景気回復の限界	63
6	資本蓄積による長期的発展を妨げる諸要因	65
6.1	熟練不足による産出高の抑制	66
6.2	生産と消費の乖離	72
6.3	経常収支の赤字	75

7	結びにかえて：イギリスの生産性上昇メカニズムが内包する諸問題	77
7.1	不平等の拡大	77
7.2	失業・雇用の地域間格差	78
7.3	貿易収支の赤字	81
第2章	日本の対英直接投資とイギリスの資本蓄積	89
	はじめに	89
1	1980年代のFDIの全体的な動き	91
2	ヨーロッパへの日本直接投資	95
2.1	対欧FDIの特徴(1)：市場追求型	95
2.2	対欧FDIの特徴(2)：組立産業への集中	99
2.3	対欧FDIの特徴(3)：イギリスへの投資集中	100
3	イギリスの対内FDIの趨勢	103
3.1	第1段階 1950～60年代：突出したアメリカの対英直接投資	103
3.2	第2段階 1970年代～80年代半ば：低迷する対英直接投資	105
3.3	第3段階 1985～95年：増加する対英直接投資	107
4	イギリス経済に対する外国企業の影響	113
4.1	イギリス企業と外国企業の比較(1985～92年)	114
4.2	イギリス企業の特徴	117
5	日本の対英直接投資	121
5.1	イギリス製造業部門における外国企業の中の日本企業の位置	121
5.2	製造業部門の日本企業の独自性	127
6	結びにかえて：「日本化」に関する議論	136
第3章	グローバル下の労働過程とイギリス労働管理	145
1	グローバル下の労働過程論とは何か	145
2	不熟練労働から成り立つ生産過程	148
	—マルクスの生産過程論—	
2.1	労働の二重性と生産過程	148
2.2	労働の二重性と資本の管理	150
2.3	賃金と労働の内容との関係(根本的対立を隠べりする諸現象)	152
3	熟練労働を含む労働過程論と形成される価値	154
	—ブレイヴァマンの労働過程論—	
3.1	ブレイヴァマンが提起する新しい課題と解決	154

3.2	ブレイヴァマンの労働過程論の評価	157
4	経営戦略による熟練創出の労働過程論	160
	ーフリードマンの労働過程論ー	
5	グローバリゼーションから展開された二重の労働力からなる労働過程論	163
	ーアトキンソンの「フレキシブルな企業」モデルー	
5.1	「フレキシブルな企業」モデルに要請される課題	163
5.2	企業理論にフレキシビリティを内包化させる必然性とその実現化	165
5.3	「フレキシブルな企業」モデルにおけるフレキシビリティ	166
5.4	「フレキシブルな企業」モデルの特徴と問題点	171
5.5	アトキンソンモデルに対する批判：その難点や不十分な点	173
6	グローバリゼーション下の労働の二重化とフレキシビリティ	176
6.1	「マンパワー戦略」によるフレキシビリティの多様化	176
6.2	企業の内部・外部で進展する機能的・数量的フレキシビリティ	178
7	グローバリゼーション下の労働の新しい問題と求められる企業組織	183
7.1	労働組合パワーの弱体化とそれに伴う賃金交渉を巡る制度変更	186
7.2	賃金の決定方法の変化と新しい支払い形式	192
7.3	熟練労働者への賃金ー可変的な(variable)賃金制度	194
8	結びにかえて	200
終章 リーマンショック以降の資本蓄積		
		209
引用文献		
		221
あとがき		
		229